

者も樂からざらん乎。われら此の如きことを望むが故に。是も一モイセラエムカの人々  
 小其靡らんとする者の結局を讀さん爲す。其面を蒙り如き小非ず。然ど彼等心を頑おせり。今日  
 に至るまで。彼等寶約を讀ど。其帽子なほ存れり。其存て廢らざる。此キリストに由て廢るべき者なれば也。  
 今日に至るまで。モ一セを讀ど。其帽子なほ其心を蒙り。然ど其心主に歸するに及ぶ。其かはあはひ  
 除かるべし。主ハ則ち彼の靈かり主の靈ある所に。凡て我儕帽子なくして。鏡に照するが如く。主  
 の榮を見榮に榮い。や増りて。其おかし。儂化る也。これ主よ。靈か由てなり。  
**第七節** 我儕の思慮を蒙りて。此職を蒙たれ。敢て應せず。耻べき隱匿たる事を。棄て。詭譎を行す。神は道を  
 混ざす。眞理を擯して。神の前に。己を衆の人の良心に。賢かり。我儕の福音も。隠なら。バ沈淪者に。隱る。也。  
 此の如き人ハ。此世の神の心を。盲したる。不信者なり。是神の儂なるキリストの。榮の福音の光をして。微等を  
 照さ。しら。めん。爲なり。われら。自己の事を。宣るに。非ず。唯。キリストイエスの。主たる。こと。又。われら。イエス  
 に。由て。爾曹の。僕たる。ことを。宣る。なり。光に。命じて。暗より。照し。めたる。神我儕をして。イエスキリストの。面々  
 ある。神の。榮光。を知。の。光を。顯さ。し。め。ん。爲。我儕の。心を。照し。給へり。我儕の。寶を。瓦器。に。藏り。是。は。い。お。優  
 たる。能。り。我。より。出。る。非。ず。神の。能なる。事の。顯れ。ん。爲。なり。われら。四方。より。患難。を。蒙。れ。ど。窮。せず。證。か。た  
 盡。れ。ど。も。望。を。失。之。ず。追。害。る。れ。ど。も。棄。れ。ず。跌。倒。る。れ。ど。も。止。まず。われら。何。處。へ。往。れ。ば。常。ホ。イエスの。死。を  
 身に。負。り。此。ハ。イエスの。生。る。こと。を。我儕の。身に。顯。れ。し。む。る。也。夫。れ。ら。生。者。の。當。ホ。イエスの。爲。ホ。死。小。付。ぎ  
 する。ハ。イエスの。生。る。こと。を。我儕が。死。べ。き。肉。體。に。顯。れ。し。む。る。也。抑。て。死。ハ。我儕。も。動。き。生。ハ。爾。曹。も。動。く。なり  
 主。と。して。我。信。する。に。因。て。言。ひ。と。有。と。ど。く。我儕。も。此。の。と。き。信仰。の。靈。お。れ。バ。信。する。に。因。て。言。さ。り。我儕。ハ

コリント後書四章九節  
 九節  
 十節  
 十一節  
 十二節  
 十三節  
 十四節  
 十五節  
 十六節  
 十七節  
 十八節  
 十九節  
 二十節  
 二十一節  
 二十二節  
 二十三節  
 二十四節  
 二十五節  
 二十六節  
 二十七節  
 二十八節  
 二十九節  
 三十節  
 三十一節  
 三十二節  
 三十三節  
 三十四節  
 三十五節  
 三十六節  
 三十七節  
 三十八節  
 三十九節  
 四十節  
 四十一節  
 四十二節  
 四十三節  
 四十四節  
 四十五節  
 四十六節  
 四十七節  
 四十八節  
 四十九節  
 五十節  
 五十一節  
 五十二節  
 五十三節  
 五十四節  
 五十五節  
 五十六節  
 五十七節  
 五十八節  
 五十九節  
 六十節  
 六十一節  
 六十二節  
 六十三節  
 六十四節  
 六十五節  
 六十六節  
 六十七節  
 六十八節  
 六十九節  
 七十節  
 七十一節  
 七十二節  
 七十三節  
 七十四節  
 七十五節  
 七十六節  
 七十七節  
 七十八節  
 七十九節  
 八十節  
 八十一節  
 八十二節  
 八十三節  
 八十四節  
 八十五節  
 八十六節  
 八十七節  
 八十八節  
 八十九節  
 九十節  
 九十一節  
 九十二節  
 九十三節  
 九十四節  
 九十五節  
 九十六節  
 九十七節  
 九十八節  
 九十九節  
 一百節

主イエスを。變ら。し。む。者。の。イエス。を。借。り。我儕。も。變。ら。せ。亦。我儕。を。して。爾。曹。と。偕。に。立。し。む。る。事。を。知。り。董事  
 ハ。己。な。ん。ぢ。ら。の。益。と。か。れ。り。此。ハ。の。濃。恩。お。ほ。く。の。人。の。感。謝。に。由。て。神の。榮。を。顯。さ。ん。爲。なり。是。故。に。我儕  
 勝。せ。ず。我儕。が。外。なる。人。ハ。境。る。と。も。内。なる。人。ハ。日。々。ホ。新。なり。夫。我儕。が。受。る。片。刻。の。輕。き。苦。ハ。極。て。大。なる  
 寶。か。き。重。き。榮。を。我儕。に。得。し。む。る。也。我儕の。廣。る。所。ハ。見。る。所。の。者。ホ。非。ず。見。る。所。の。もの。也。ハ。見。る。所。の。者  
 ハ。暫。時。に。して。見。ぎ。る。所。の。者。ハ。永。遠。け。れ。ど。也。  
**第八節** 我儕の。き。を。知。れ。ら。が。地。に。お。る。幕。屋。も。し。墳。な。ハ。神の。賜。ふ。所。の。屋。夫。に。お。り。手。か。て。造。ぎ。る。窮。さ。く。有  
 ところの。屋。なり。我儕の。幕。屋。お。居。て。歎。き。天。より。賜。ふ。我儕の。屋。を。衣。の。如。く。著。ん。と。を。深。く。欲。へり。誠。ホ。著  
 ことを。得。バ。裸。お。なる。こと。無。らん。我儕の。幕。屋。を。重。を。負。て。蒙。り。衣。の。如。く。願。ん。と。を。欲。ハ。す  
 彼。を。衣。の。如。く。著。ん。と。を。欲。ふ。是。生。に。死。べ。き。者。の。香。れ。ん。が。爲。なり。我。れ。此。事。ホ。應。ふ。者。也。我儕。を。爲。し。給。ふ。者  
 ハ。神。なり。彼。靈。を。其。實。と。か。して。我儕。に。賜。へり。是。故。に。我儕の。心。つ。ね。に。剛。毅。な。た。身。お。居。う。ち。ハ。主。より。離。居。て  
 と。を。知。り。蓋。わ。れ。ら。見。る。所。に。憑。き。信仰。に。憑。て。歩。め。ど。也。我儕の。心。剛。毅。も。つ。と。も。欲。ふ。所。ハ。身。を。離。れ。て。主  
 信。に。居。ん。と。也。是。故。に。我儕。身。に。居。て。も。身。を。離。れ。て。も。彼。の。心。お。通。ん。と。を。勉。む。蓋。わ。れ。ら。必。ず。皆。キリス  
 トの。臺。前。に。出。て。善。も。お。れ。惡。に。も。お。れ。各。々。身。お。居。て。爲。し。所。の。こと。ホ。循。ひ。其。報。を。受。べ。き。者。な。れ。ど。也。○如  
 此。わ。れ。ら。主の。畏。び。を。知。る。故。に。人。ホ。勸。む。我儕。す。で。お。神。に。明。か。に。知。れ。たり。亦。な。ん。ぢ。ら。の。良心。に。も。明。か。に。知  
 れ。た。る。な。らん。と。意。ふ。我儕。も。た。ら。己。を。爾。曹。に。勸。す。我儕の。爲。ホ。本。詩。る。べき。原。を。爾。曹。に。予。ん。是。な。ん。ぢ。ら。が。之  
 を。以。て。彼。の。外。貌。に。よ。り。心。に。由。す。し。て。誇。る。者。ホ。答。ん。爲。さ。り。我儕。も。し。心。狂。る。か。ら。ば。是。神の。爲。さ。り。心。慥。な。ら  
 ば。是。な。ん。ぢ。ら。の。爲。さ。り。キリストの。愛。わ。れ。ら。を。勉。せ。り。我儕。思。に。一。人。衆。の。人。に。代。て。死。た。れ。バ。衆。の。人。す。で。に

コリント後書四章十節  
 十節  
 十一節  
 十二節  
 十三節  
 十四節  
 十五節  
 十六節  
 十七節  
 十八節  
 十九節  
 二十節  
 二十一節  
 二十二節  
 二十三節  
 二十四節  
 二十五節  
 二十六節  
 二十七節  
 二十八節  
 二十九節  
 三十節  
 三十一節  
 三十二節  
 三十三節  
 三十四節  
 三十五節  
 三十六節  
 三十七節  
 三十八節  
 三十九節  
 四十節  
 四十一節  
 四十二節  
 四十三節  
 四十四節  
 四十五節  
 四十六節  
 四十七節  
 四十八節  
 四十九節  
 五十節  
 五十一節  
 五十二節  
 五十三節  
 五十四節  
 五十五節  
 五十六節  
 五十七節  
 五十八節  
 五十九節  
 六十節  
 六十一節  
 六十二節  
 六十三節  
 六十四節  
 六十五節  
 六十六節  
 六十七節  
 六十八節  
 六十九節  
 七十節  
 七十一節  
 七十二節  
 七十三節  
 七十四節  
 七十五節  
 七十六節  
 七十七節  
 七十八節  
 七十九節  
 八十節  
 八十一節  
 八十二節  
 八十三節  
 八十四節  
 八十五節  
 八十六節  
 八十七節  
 八十八節  
 八十九節  
 九十節  
 九十一節  
 九十二節  
 九十三節  
 九十四節  
 九十五節  
 九十六節  
 九十七節  
 九十八節  
 九十九節  
 一百節





お兄弟等を遣せり 恐らハニヤ人われと偕に來リ爾曹が備せざるを見んども爾曹のいふお及す我  
 儻まで此疑ふ事誇しに因て愧を蒙らん 是故に我兄弟を勸て先なんがらに往しめ彼等をして曩に爾曹が告  
 し所の患の之を預じめ備しむるハ必ず爲べきと意んくなり蓋この施濟をしむ心よりなすま惠び心  
 より爲じめんぞすれば也 うれしく播者ハ少く種かほく播者ハ多く種べし 各人の心の中お欲ふ所に  
 隨ひて施すべし覺て爲べからず亦強て爲べからず蓋神ハ喜びて施をするものを樂し給へばなり 神ハ爾  
 曹をして常に凡の物お足ざることなく凡の善事を多く行せしめん爲に諸 恩を多く爾曹に賜へ得なり  
 鑄して彼の徳ハ施し亦貧者に予たり其義ハ窮なく存んどもあが如し 播者に種をすへ食の爲にパンを  
 備たす人者ハ爾曹ハ種を繁得し亦なんからの義の實を増給ふべし ならん毎事に富たき人者なく施を  
 行ふことを得たり是人をして我儻に由て神に感謝せしむ 蓋この施濟れども第本聖徒の乏を補ふのみか  
 らず推廣め影の人をして神も感謝せしむるに至れど也 彼等ハ此施の證據により爾曹が言現してキリス  
 トハ福音お伝ふてどきも彼等および衆の人に施することを知 また神ハ爾曹に賜じ厚恩に緣て爾  
 曹を慕ひ爾曹の爲お神を神も歸す 子の言盡されぬ神の賜物に因て我神に感謝する也  
**第十節** 我ハバカロ即ち爾曹の中に在て爾曹と面を觸するどきハ 誦卑なんがらを離るるときハ勇敢者のま  
 キリストの柔和と寛容を以て爾曹に勸む 我儻を肉に循ひて行ど意ん者わり我かくの如き人を得ふに  
 勇敢せんと意へり只ねがふ所ハ爾曹に會どき此の如く勇敢せざらんぞなり 我儻ハ肉に在て行けども  
 肉に循ひて戰えず 夫われらハ戰の器ハ肉に屬する者に非ず蓋聖を破るは惡神に由て能あり 我儻ハ神  
 の教に逆ひて建たる所の諸の標と論を與し諸の意思を擡にしてキリストに脚之しじ 我なんがらが全く

一節一〇一節五

二節一〇二節五

三節一〇三節五

四節一〇四節五

五節一〇五節五

六節一〇六節五

七節一〇七節五

八節一〇八節五

九節一〇九節五

一〇節一一〇節五

一一節一一一節五

一二節一一二節五

一三節一一三節五

一四節一一四節五

一五節一一五節五

一六節一一六節五

一七節一一七節五

一八節一一八節五

一九節一一九節五

二〇節一二〇節五

二一節一二一節五

二二節一二二節五

二三節一二三節五

二四節一二四節五

二五節一二五節五

二六節一二六節五

二七節一二七節五

二八節一二八節五

二九節一二九節五

三〇節一三〇節五

三一節一三一節五

三二節一三二節五

三三節一三三節五

三四節一三四節五

三五節一三五節五

三六節一三六節五

三七節一三七節五

三八節一三八節五

三九節一三九節五

四〇節一四〇節五

四一節一四一節五

四二節一四二節五

四三節一四三節五

四四節一四四節五

四五節一四五節五

服んぞき諸の違逆者を罰せんと既に其備をなせり 爾曹ハ豹の若し人みづからキリストに  
 屬するものと信ぜば復自ら之を思ふべし已がキリストに屬する者なり 主の我  
 儻に賜ひし所の權威すなわち爾曹を取る爲にわらす建ん爲に賜ひし者について懸言るども我愧と爲す  
 我これと言ひ書を以て爾曹を懼しむる如く見ざらん爲なり 蓋かれらの言に其書ハ重かつ嚴く其會  
 々き容ハ懼く其言ハ鄙と云べなり 此の如き人これと思ふべし我儻ハ曠遠と云の書の言の嚴きが如く  
 會々きに行ふ事も亦かくの如くならん 自ら興る者わり我儻敢て之と匹これと較ることをせざる等  
 みづから互に度みづから互に較れば智かき者あり 我儻ハ量を賜て誇らす惟神われらに頒給ひし所の法  
 の量に循ふ我儻の量に循ひて爾曹にぞ至れり 我儻ハ爾曹に至るべからざる者の如く自ら量を踰て  
 爾曹に及るに非ず蓋キリストの福音を傳て既に爾曹にまで至れり也 我儻ハ量を踰て他の人の功勞を誇  
 らす惟なんがら信仰いよ 儻なり我儻ハ量なんがらの中に在て更に大なる事を望む 是われら他  
 の人の量に由て既に備れるものを誇らす爾曹を越て外の處に福音を傳んが爲なり 誇る者ハ主を誇るべ  
 し 謙みづから興るに非ずして主の譽るもの可と爲るれば也  
**第十一節** 願くハ爾曹少しく我が愚を容れ爾曹ハ原より我を容る者なり 我れ神の熱心の如き熱心をも  
 て爾曹を念ふ我なんがら一人の夫に應定せり是なんがらを潔き女としてキリストに獻んとする也 蛇  
 の詭詐にエバの誘されし如く爾曹の心壞之れてキリストに向ふの誠實を離ん事を我儻懼る もし人きた  
 りて我儻に未だ宣ざる外のイエスを宣んに爾曹あるひに未だ受ざる外の靈をうけ取り未だ受ざる外の福  
 音を受けると云ハ爾曹能て之を容らん 我ハ何事にも尤も大なる使徒等お亞すと意んなり 我ハ言に掛けれ

一節一四六節五

二節一四七節五

三節一四八節五

四節一四九節五

五節一五〇節五

六節一五一節五

七節一五二節五

八節一五三節五

九節一五四節五

一〇節一五五節五

一一節一五六節五

一二節一五七節五

一三節一五八節五

一四節一五九節五

一五節一六〇節五

一六節一六一節五

一七節一六二節五

一八節一六三節五

一九節一六四節五

二〇節一六五節五

二一節一六六節五

二二節一六七節五

二三節一六八節五

二四節一六九節五

二五節一七〇節五

二六節一七一節五

二七節一七二節五

二八節一七三節五

二九節一七四節五

三〇節一七五節五

三一節一七六節五

三二節一七七節五

三三節一七八節五

三四節一七九節五

三五節一八〇節五

三六節一八一節五

三七節一八二節五

三八節一八三節五

三九節一八四節五

四〇節一八五節五

四一節一八六節五

四二節一八七節五

四三節一八八節五

四四節一八九節五

四五節一九〇節五



也。われ語るに因て愚かる者となり、爾曹われを強て如此なせり。蓋われ取に足ざる者なれども、凡の事も、  
 つども大なる使徒、おほしき原より爾曹を懲らるべき者なれど、われ休徴と奇跡と妙用をもて爾曹  
 の中に多く忍びて使徒の譴をあせり。我が爾曹を懲らせざる事、外に爾曹他の教會に何の悪る所かある  
 願くは、我の今第三次なんぢらに至らんとて、備せり。又なんぢらに累させざらん、とす。蓋  
 われ爾曹の所有を求めず。唯なんぢらに求めば、れ子に親の爲に、覆ふべき者に非ず。親の子の爲に、積ふべ  
 き者なり。我いよ、爾曹を愛すれば、愈爾曹に愛せられず。然て、欣びて爾曹の靈魂の爲に、財を費し、身を盡  
 すべし。然て、或人言、我かぢらに累せざるに巧なる者あるに、より詭計を以て、爾曹を牢籠するなり。とわ  
 れ、爾曹に遣はし、者の中の誰に由て、爾曹より利を得しや。われ請て、テトスを爾曹に遣はし、又かれと偕に、我儕  
 の兄弟をも遣せり。テトス、爾曹より利を得し、乎われら同心にて行ざりしや。同跡を行ざりし乎。爾曹また  
 我儕みづから、爾曹に懸するど、意ふ、我キリストに在て、神の前に、いふ、獎する者、我儕の行ふ所、皆爾曹の  
 徳を、健全爲なり。我いたらん時、われ爾曹を見に、我が欲し、如ならず。爾曹、我を見に、も爾曹の欲し、如くなら  
 ざらん、とを、恐また、争鬪、嫉忿、怒争、ひに分る。と、異謗、讒言、驕矜、混亂、などの有んことを、恐る。又わが再び  
 至らん時、わが神、我をして、爾曹の中に、愧しめ、給ふんことを、恐また、我は、わくの人の罪を、犯て、其行ひし所の汚  
 穢、淫放、罪などの事、悔改めざるを見、て、愛んことを、恐る。  
 我の、第三次なんぢらに至らん、二人ある、ひに二人の、證人の、口に、憑て、凡の事、定るべし。我ら  
 きに、爾曹に、告たり。我第二次なんぢらに、觀し、とき、語り、し、如く、罪を、犯し、し、者、其、餘の、人々、に、今、また、預し、め、め、  
 違て、告われ、復いたらんと、必す、恕さじ。是な、んぢら、キリストの、我に、在て、語る、徴を、求るに、因て、なり。彼、我、爾曹に

カ 一〇七  
 九 一〇六  
 八 一〇五  
 七 一〇四  
 六 一〇三  
 五 一〇二  
 四 一〇一  
 三 一〇〇  
 二 九九  
 一 九八  
 二 九七  
 三 九六  
 四 九五  
 五 九四  
 六 九三  
 七 九二  
 八 九一  
 九 九〇  
 一〇 八九  
 一一 八八  
 一二 八七  
 一三 八六  
 一四 八五  
 一五 八四  
 一六 八三  
 一七 八二  
 一八 八一  
 一九 八〇  
 二〇 七九  
 二一 七八  
 二二 七七  
 二三 七六  
 二四 七五  
 二五 七四  
 二六 七三  
 二七 七二  
 二八 七一  
 二九 七〇  
 三〇 六九  
 三一 六八  
 三二 六七  
 三三 六六  
 三四 六五  
 三五 六四  
 三六 六三  
 三七 六二  
 三八 六一  
 三九 六〇  
 四〇 五九  
 四一 五八  
 四二 五七  
 四三 五六  
 四四 五五  
 四五 五四  
 四六 五三  
 四七 五二  
 四八 五一  
 四九 五〇  
 五〇 四九  
 五一 四八  
 五二 四七  
 五三 四六  
 五四 四五  
 五五 四四  
 五六 四三  
 五七 四二  
 五八 四一  
 五九 四〇  
 六〇 三九  
 六一 三八  
 六二 三七  
 六三 三六  
 六四 三五  
 六五 三四  
 六六 三三  
 六七 三二  
 六八 三一  
 六九 三〇  
 七〇 二九  
 七一 二八  
 七二 二七  
 七三 二六  
 七四 二五  
 七五 二四  
 七六 二三  
 七七 二二  
 七八 二一  
 七九 二〇  
 八〇 一九  
 八一 一八  
 八二 一七  
 八三 一六  
 八四 一五  
 八五 一四  
 八六 一三  
 八七 一二  
 八八 一一  
 八九 一〇  
 九〇 〇九  
 九一 〇八  
 九二 〇七  
 九三 〇六  
 九四 〇五  
 九五 〇四  
 九六 〇三  
 九七 〇二  
 九八 〇一  
 九九 〇〇

向弱からず。爾曹の中に強なり。かれ弱に由て、十字架に釘られたまき、と神の能に由て、生たり。我儕も、彼に在て  
 て、弱者なれど、爾曹に向ふ神の能に由て、彼と偕に、生ん。なんぢら、信仰に、居や否や、自ら、省み、自ら、試むべし。爾  
 曹も、し、棄らるる者なり。す、キリスト、爾曹の中に、あり。文を、自ら、知ざらん。手、われら、棄らるる者、に、非  
 ざるを、爾曹、知んことを、我の、予じ。我儕、な、んぢら、少も、悪を行へざらんことを、神に、願ふ。此れ、われらの、是なる  
 ことを、彰すに、非ず。我儕、棄らるる者、の、如く、見るも、爾曹、が、善を行はんとて、を、願ふ。なり。蓋われ、眞理に、逆ひ  
 て、能なく、眞理に、順ひて、能われ、之也。われら、弱して、爾曹、強と、さひ、我喜ぶ。我儕、願ふ所、皆、爾曹の、全ならん。事な  
 り。是故に、我、疎遠て、あると、さ、此を、書遣る。是な、んぢらに、觀ん、と、さ、主の、賜ひし、權威、すな、ち、敗る、爲に、非  
 ず。建る、爲に、賜ひし、者に、循ひて、嚴く、爾曹を、待ふ。と、無らん、爲なり。此、外、また、言、兄弟、爾曹、喜ぶ、且、全なり  
 且、懇め、且、心を、同らし、且、和睦、と、せ、せ、と、然らば、愛と、平安の、神、な、んぢらと、偕に、在ん。な、んぢら、深き、接吻、をも  
 て、互に、相問べし。諸の、聖徒、な、んぢらに、安を、問ひ、願くは、主、イエスキリストの、恩と、神の、愛と、聖靈の、交際、な  
 んぢら、衆と、偕に、在んことを、アミン

一 九二  
 二 九一  
 三 九〇  
 四 八九  
 五 八八  
 六 八七  
 七 八六  
 八 八五  
 九 八四  
 一〇 八三  
 一一 八二  
 一二 八一  
 一三 八〇  
 一四 七九  
 一五 七八  
 一六 七七  
 一七 七六  
 一八 七五  
 一九 七四  
 二〇 七三  
 二一 七二  
 二二 七一  
 二三 七〇  
 二四 六九  
 二五 六八  
 二六 六七  
 二七 六六  
 二八 六五  
 二九 六四  
 三〇 六三  
 三一 六二  
 三二 六一  
 三三 六〇  
 三四 五九  
 三五 五八  
 三六 五七  
 三七 五六  
 三八 五五  
 三九 五四  
 四〇 五三  
 四一 五二  
 四二 五一  
 四三 五〇  
 四四 四九  
 四五 四八  
 四六 四七  
 四七 四六  
 四八 四五  
 四九 四四  
 五〇 四三  
 五一 四二  
 五二 四一  
 五三 四〇  
 五四 三九  
 五五 三八  
 五六 三七  
 五七 三六  
 五八 三五  
 五九 三四  
 六〇 三三  
 六一 三二  
 六二 三一  
 六三 三〇  
 六四 二九  
 六五 二八  
 六六 二七  
 六七 二六  
 六八 二五  
 六九 二四  
 七〇 二三  
 七一 二二  
 七二 二一  
 七三 二〇  
 七四 一九  
 七五 一八  
 七六 一七  
 七七 一六  
 七八 一五  
 七九 一四  
 八〇 一三  
 八一 一二  
 八二 一一  
 八三 一〇  
 八四 〇九  
 八五 〇八  
 八六 〇七  
 八七 〇六  
 八八 〇五  
 八九 〇四  
 九〇 〇三  
 九一 〇二  
 九二 〇一  
 九三 〇〇